



さくらちょうしょう

桜町小だより

「緑と笑顔がいっぱい桜町小」

児童数 339名

令和7年7月号 令和7年7月1日発行



グングン伸びよ、さくらっ子！ ～「体験」は成長の栄養素～

～ 学校で学び 家庭でしつけ 地域ではぐくむ さくらっ子 ～

校長 齊藤 敦史

梅雨明け前にも関わらず、ここ数日は真夏のような太陽の日差しと、体温に近い気温で、子供たちの体調が心配になるほど良い天気が続いております。学校では、冷房環境の確保や水分補給の徹底など、熱中症予防をはじめ、子供たちの健康管理のために、できる限りの策を講じております。そのような中、さくらっ子の皆さんも、学期末、そして夏休みに向けて、毎日を元気に過ごしております。

さて、5月の全校遠足に続き、先月は6年生が日光へ修学旅行に、5年生が千葉県富津市へ大貫海浜学園に、それぞれ宿泊学習に行っていました。また、他の学年も、学校を出て「町たんけん」や「福祉マップづくり」に行ったり、校内でも、租税教室や全国歯みがき大会、アサガオや夏野菜の栽培など様々な体験(活動)を実施しました。2学期も、生活科見学や社会科見学等、学年のねらいや趣旨に沿って進めてまいります。さらには、今後、近隣小中学校との交流や、地域の皆様との交流など新たな行事等も創り出すことで、子供たちには様々な体験・経験を積んでもらおうと考えております。

「とにかく楽しかった。」「もっと長く泊まりたかった。」「自然は綺麗だけど、天気がコロコロ変わって大変だった。」「教科書で見るより、ホンモノは凄かった。」「他校との交流は緊張したけど、やってよかった。」「自分の(植物)が大きく育って嬉しい。」「地域の人やお店の人が優しくかった。」これらは、上記の行事の実施後に、子供たちからきいた感想(の一部)です。子供たちが受けた印象や感想は様々でしたが、これらの行事を通して、さくらっ子一人ひとりに確かな成長の姿が見られたことは、紛れもなく大きな収穫でした。

なぜ、このように行事や体験活動を大切にするかといえば、『全ては子供たちの健やかな成長のため』『より良い成長には、体験機会が必要』と考えたためです。

文部科学省が公表している「青少年の体験活動に関する調査研究結果報告」によると、小学生時代の体験活動は、大人へのより良い成長と密接な関係があるとのことでした。調査の結果から、小学生時代の体験活動が豊富な人ほど、自尊心(自分に満足、肯定的)や外向性(社会性や活発さ)、精神的な耐性や回復力(忍耐や感情の調整、前向きな気持ち)といった項目の数値が高いことが裏付けられました。また、異年齢の人と遊んだり、自然豊かな場所や空き地、公園などで遊んだ経験が豊富な子供からも、同様の結果がみられたそうです。

これらを踏まえると、子供たちにより多くの体験・経験を積ませることは、より良い成長には欠かせない要素であり、同時に私たち大人に課せられた重要な「使命」であることも分かります。

さて、長かった1学期も、残すところあと13日。さくらっ子は、様々な行事を遅しく乗り越え、日々の学校生活でも多くを学び、豊富な体験で心も身体も大きく成長しました。あと数日の登校で、間もなく夏休みを迎えます。

一方、子供たちにとっては、この期間ならではの「体験」もあります。サマースクールその他、地域の皆様や市の各施設でも、夏休みに様々なイベントを計画してくださっております。積極的に参加し、多くの方々と交流を図るなど、様々な体験を行うことで、学校ではできない学びも得て、一層の成長をしてほしいと願います。

夏休みこそ「学校で学び 家庭でしつけ 地域ではぐくむ さくらっ子」の思いを共にし、今後も、本校の教育活動へのご理解・ご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。